

松江市八雲複合施設 企画展

きじし こぼやしこうはち 木地師・二代小林幸八の仕事

【二代小林幸八について】

二代小林幸八は、本名を安達真市(1878-1935)といい八雲町熊野出身です。幼時から細工物に興味を持ち、兵役で広島師団入営中に宮島に遊び、宮島細工に興味を覚えました。帰省後に初代小林幸八に師事して腕を磨き、初代没後に二代小林幸八を襲名します。作品には、盆・蓋物・棗・香合などがありますが、特に棗に腕の冴えを見ることができます。

明治43年(1910)に開催された大日本産業博覧会の出品を皮切りに、多くの博覧会に出品し数々の受賞歴があります。「島根の工芸(島根県立博物館 昭和63年3月)」や「島根歴史人物事典(山陰中央新報社 平成9年11月)」などにも紹介されている島根を代表する作家で、島根県立美術館にも「郷土の工芸品」としてその作品が収蔵されています。

松江市指定有形民俗文化財の幸八の資料は、全部で1924点あり、原材料(松皮・黒柿・まつかわ香木)や加工道具(手挽き轆轤・轆轤鉋)、仕上げ道具(トクサ・さめかわ鮫皮)などの他、完成品、未完成品、型紙や書簡類なども含まれています。全国的にこれだけ多くの木地師道具が揃っている例は少なく、大変貴重な資料です。また、彼は、日本画家 安達不伝の実父でもあります。この度の展覧会は、幸八の製品や道具を展示することで、改めて幸八の技術の高さと業績を知っていただく機会にするため**松江歴史館***と**同時開催**いたします。

※2/22～4/3の期間中に基本展示室(有料)内でスポット展示を行います。詳しくは松江歴史館にお問合せください。



幸八使用の手挽き轆轤



幸八は、棗などの茶道具類を得意としたが、このような飯櫃なども製作している

会場 松江市八雲複合施設 (松江市八雲町西岩坂 355-1) 2階オープンスペース

期間 令和4年2月22日(火)～4月1日(金) 9:00～17:00 (土日祝日は、休館)

料金 無料

お問合せ 松江市歴史まちづくり部まちづくり文化財課 電話(0852)55-5523